

「茂田井武展 -記憶の頁-」

画帳『ton paris』と絵雑誌『キンダーブック』より

ノエビア銀座ギャラリーにて開催



「ホフマンのくるまわりにんぎょう」1953年 油彩 ちひろ美術館蔵



画帳『ton paris』より
1930-33年 水彩
大川美術館蔵（前期展示）

TAKESHI MOTAI 茂田井武展 -記憶の頁-

画帳『ton paris』と絵雑誌『キンダーブック』より

茂田井武は、戦中から戦後にかけて活躍した挿画家・童画家です。48年間の短い生涯ながら、見るものの心に今も語りかけてくる魅力的な絵画を残しました。青年時代、パリに滞在して描きためた印象のスケッチ『ton paris』。そして晩年、子どもたちに向けて筆を揮った絵雑誌『キンダーブック』。本展では、二つの側面から、素朴な詩情と豊かな物語をたたえた茂田井武の世界を紹介します。

茂田井武（もたい たけし） 1908-1956 東京生まれ

東京・日本橋の旅館の次男として生まれる。関東大震災で生家が全焼。1930年に渡仏。パリの日本人クラブで働きながら独学で絵を描く。帰国後、様々な職を転々とした後、雑誌『新青年』や大衆小説などに挿絵を描くようになり、注目される。特に戦後の10年間は、子どもの本や雑誌を中心に膨大な仕事に取り組んだ。1954年、絵雑誌『キンダーブック』の仕事に対し、小学館児童文化賞児童絵画賞を受賞。絵本の代表作に『セロひきのゴージュ』がある。素朴な詩情と幻想、郷愁とユーモアを含んだ絵で、戦後の出版美術界に大きな影響を与え、没後半世紀以上を経た現在も、人々を魅了し続けている。

「茂田井武展 -記憶の頁- 画帳『ton paris』と絵雑誌『キンダーブック』より」《入場無料》

会 期：2015年1月13日（火）～3月27日（金）
 ※2月21日（土）は展示替えのため休館
 前期：1月13日（火）～2月20日（金）
 後期：2月22日（日）～3月27日（金）
 開 催 時 間：午前10時～午後6時（土・日・祝日は午後5時まで）
 会 場：ノエビア銀座ギャラリー（ノエビア銀座本社ビル1F）
 主 催：株式会社ノエビア
 お 問 合 せ：0120-401-001（月～金/9:00～18:00 土・日・祝日除く）
 ノエビア銀座ギャラリーサイト <http://gallery.noevir.jp/>



東京都中央区銀座 7-6-15

<マスコミの方からのお問い合わせ>

TEL 03-5568-0305 FAX 03-5568-0441 (株)ノエビアホールディングス 広報・IR部 後藤・森山